
ブラックに執筆してみよう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ブラックに執筆してみよう

【Nコード】

N1654S

【作者名】

-
-
-

【あらすじ】

「イラストで勝負するべし!」「ストーリー? んなもん考える暇あるんだっいたらもつとエロくしとけよエロく!」「男性キャラはとりあえずゴミ箱にでも突っ込んで!」「読者に文学を求めんな!」などなど『毒をもって毒を制す』ひねくれ者のための不道德執筆講座! ピュアな人、まじめな人は読まないでね

1・イラストで勝負するべし とか(前書き)

とりあえずあんまりまに受けないでねッ!

責任取らないからねッ!

基本そついう無責任な人間のザレゴトだからねッ!

1・イラストで勝負するべし とか

イラストで勝負するべし

ぶっちゃけノベルは扉絵が勝負だ。商業紙の商戦なんかを見てもそう思った。

ジャケ買い、と言うのだろうか。流行り廃りのある分野ではかなり多くを占めている印象があった。

特に君たちが傾倒している（と思わしき）ライトノベルなんかはそれが露骨に顕著だ。

もうほとんど決め手は絵。

ここで言う絵とは萌え萌えしているようなヤツとかデフォルメが強いヤツとかpixivで人気があるようなヤツとか、いわゆる二次元絵とかいうのだ。

絵がよければ読者層の購買欲あるいはアクセス数はグッと上がる。どちらかと言うとマンガに近いか知れない。

文章はおまけ。抱き合わせ。

というより彼らにとってはその文章が小説というジャンルであったとしても。

そういう気がしてならないし、これは独りよがりじゃないと思う。ボクは『小説なんだからもっとこだわってもいいんじゃない？』と思うけれど、どうやら世間一般の価値観とはだいぶ齟齬や乖離があるようだ。

だからまずデッサンから始めなさい。文章を書くのはそれからでも遅くない。

なるうではタイトルがアクセスに与える影響はかなり大きい。

これは作家先生ならデータを出さずとも重々ご承知だと思う。

ボクは唐変木だから読者がどういうタイトルをご所望なのか分からないが、とりあえずは書店のライトノベルの棚ジャンルにならってみるのがいい。それがこのサイトの主流らしいから。

1・とりあえずひらがなにしてみる。

これだけでだいぶ印象は変わる。だいぶやわらかになっけとつっきやすくなる。

「 「 「

この『 』をひらがなにして、『 』のどつちかに何らかの記号を入れてみる。マニュアル通りだが効果的かもしれない。『 』は4文字でも、任意の数にでも好きな方にしたらいいと思う。

2・とりあえず文章系

「 と××の〜」

これが一番ラノベらしいかもしれない。3と組み合わせるとインパクトが強いから客寄せにはテキメン。

3・とりあえず香ばしくしてみる。

要するにウケを狙った題名も考えてみる。風変わりな題名にしてみる。

4・英語・翻訳(または発音)・

いわゆるスレイヤーズの波及系。もしくは『漢字(難しめのヤツ)・読みがな・』。

このくらい？

新開拓も含めて頭を捻ってみると良きアイデアにめぐり合えるかもしれない。パクりはダメだよ。

2・男性キャラはゴミ箱にでも突っ込んで！(前書き)

いわゆる『けいおん！(けいおん！)』戦法。

2・男性キャラはゴミ箱にでも突っ込んで！

・男性キャラはゴミ箱にでも突っ込んで！

『物語の花形は女性キャラクターだが、魅力的な男性キャラクターは作品に幅を持たせる。より表現を豊かにする』

昔はこう思っていた。……それもちよつと前までは。

ただ、今のタイトルを見てみるとどうだろう。『男性キャラはゴミ箱にでも突っ込んで！』。なんて息巻いてる。

昨今の創作事情についてちよつとばかり把握しきれていない部分もあるが、言う限り理由はある。

1つは、最近そういう手法が人気だから。読者層から支持されやすい。

女子高生もの……、特に女性主人公とその友達グループをピックアップして日常をワイワイやるのが一番多い。

また、女子大生や女子中学生と友達近辺の交友を描くやり方も人気だ。

はやりの手法を取り入れてみるのもいいかもしれない。

もう1つは男性キャラが完全に目もあてられなくなったということ。

いわゆる消去法での考え方になる。そんなんやるくらいなら出すなよと。その役割が女の子で済むならそっちの方がマシだと。

今回力を入れて訴えたいのはここ。

まず男性主人公。

昨今の創作界限ではこんなものが多い。

なんでもできちゃう。なんでもやれちゃう。なんでもこなせちゃう。万能で優等生。しかもイケメンで（作中ではいちおう否定はするもののそれを臭わせる描写が多い）、何もしないでモテちゃう。両手に花。女の子漁り放題。遊び放題。むしろ女の子の方からアタックしてくる。役得で毎日ラッキースケベ、ごつつぁんです。いやーあ、別に俺は興味ないんだけど偶然そうなっちゃうんだ。バトルモノでは形式的にピンチにはなるけれど、最後は余裕の一撃。オレ強エー！ 状態で余裕のフィニッシュ。ドヤ顔（それっぽい描写）で決めゼリフ。俺が全て正しいんじやー、悪いのは噛ませのお前らッ！ 特にお前だよお前ッ！

……。

君たちの場合はこれを手放して応援したくなるかもしれない。

しかしボクというトウヘンボクに限り言わせて貰うところというのはちよつと読むのツライ。

それが世間の人気作品というのならしょうがないかもしれないが、いささか個人的な感情を押し殺さなくてはならない。

ちよつとばかり（著者の）自己陶醉が行き過ぎてしまっているようにも思える。世間のニーズが過激化している点も否めないが少しばかり立ち止まって『彼』を客観視してみたい。あまりにも緻密に完璧によくできすぎている。

予定調和も大変よろしいが物語の最初から最後まで終始一貫して彼のサクセスストーリーを追えというのはボクにとって簡単ではない。創作物という娯楽分野に対してもそうとう疲弊しなくてはならないかもしれない。

そして脇役。

彼は主人公の友達であることが多いが、不運にも『完全なアシスト役に徹しなければならぬ』。

これはまあ役割上しょうがないのかもしれないがちよつと悲惨だ。

まず主人公のことを無条件で応援、アシスト……自己の利益も省みずとにかく彼へのアシストパスを量産し続けなければならない完璧な善人である。まさに理想像かもしれない。

そして主人公のおかげで容姿は彼より格段にカッコ悪く描かれ主人公の取り巻きの女の子からは完全に（恋愛対象から）スルーされる始末。

進行や説明のために必要とあればいつでも呼び出され、カゲではいつも主人公のストロングポイントのみを語らなければならない。

基本恋愛はしない。するにしても主人公のものをつまんではいけない。今時三角関係とか流行らないらしい。完全に主人公の恋愛対象をチエックした上、消去法で恋愛することを余儀なくされる。

構成上しようがないかもしれない。創作物とはそういうものだからと彼の日陰人生を察してやるべきなのかもしれない。

ただ、少しでも疑問に思ってしまう。何でもかんでも協力的で、主人公のマナージャーをいとわずにやってやる善人の存在を疑問視してしまう。こう思うのはボクが偏屈だからなのだろうか？そして妙な違和感を覚えて、しこりの残ったまま物語を見る。

まあ説明の都合上、本当に極論を書いた。悪く書いた。もちろんそうでない作品はたくさんある。むしろボクはレアケースの揚げ足取りをしているだけで、そうでない作品のがよっぽど多いのかもしれない。けれども、これら上記をいくつかを満たす作品も結構見かける。

そういう残念な男性キャラを出すくらいだったら……

著者の自己陶醉の塊のような主人公

無味無臭。まるで味気のない、何の面白みもない　主人公とい

う坊ちやまをサポートするためだけに存在する
キャラの（脇役）。

執事たち。（男）

こういう男キャラを見るくらいだったら

いっそ、女性キャラだけにした方がいい。

結果的にそう言わざるを得ない。

・美少女ツンデレキャラの口癖は「死ね」か「キモい」で

美少女ツンデレキャラの口癖は「死ね」か「キモい」で

とりあえず今時の読者はツンデレキャラが「死ね！」だとか「キモい！」とか言うところ。こういうな過激なパフォーマンスを好む傾向にある。

罵倒されて何が嬉しいんだろう、とボクは思ったりもするのだが最近の創作界隈ではそういうきらいで設定やら何やらが組まれている。

これについて論理的な説明は非常に難しく感じるので、今回はそうしない。ボク自身もどういふ筋道で論を立てていいのか正直考えあぐねている。

ただ、1つボクが思いあたったのは、最近はそういう言葉の毒気が抜けてきている(らしい)ということ。要するに言葉のニュアンスが軽くなったのだ。最近友達同士で「死ね！」とか「キモい！」とか使ってもまったく平気で、交友関係に亀裂は入らないらしい。

(ただしボク自身は間違ってもそういう言葉は使わないし、そういう様な交友関係はオススメしない)

しかしながらこれができるのは美少女オナーの鉄則である。逆を言えばそうでさえあれば良いらしい。美少女の毒舌はおいしいという不思議な化学反応である。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1654s/>

ブラックに執筆してみよう

2011年4月16日16時55分発行